

# 当別文芸の会だよりNO.101

R1・6/21（連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550）

## 5月の読書会は奥田英朗の「向田理髪店」でした

5月1日、新元号も令和になりましたが、「当別文芸の会」も10年目の活動に入り、その第1回目となる読書会が、5月25日（土）、白樺コミセンで開催されました。

当日は、一気に初夏を思わせる暑さで、札幌の最高気温は31.1℃を記録したようです。年度初めの会員は18名でのスタートとなりましたが、5月は他の行事と重なったのか、会員の参加は8名でした。

今回の読書感想交流は、幹事の新名正勝さんの推せんで、奥田英朗（ひでお）著の「向田理髪店」（光文社文庫）を取り上げ、司会進行はそのまま、新名さんをお願いしました。

この作品の著者は、昭和34年（1959）、岐阜県の生まれで、平成16年（2014）に、第131回直木賞ほか、多数の受賞作のある作家です。

内容は、標題のほか5編の短編集でしたが、北海道の過疎の町の様々な騒動と人間模様を、温かくユーモラスに描いたもので、参加者からは、日常の生活がそのまま伝わってくると、とても好評でした。

文章も簡潔、会話のテンポ、合間の季節感の表現もすばらしく、生活がしっかり地についていて、便利さだけが私たちの求める生活でないことを示唆しているようでした。

ただ、作品名からは、内容が想像できず、この作品を手にする機会がないのではという心配が残りました。みなさんはいかがでしたか。

続いての文芸交流は、副代表（事務局長）の竹原一孝さんの司会進行で「外国人とどう付き合うか？」について、意見を述べ合いましたが、問題が大きなだけに、時間的な制約もあり、課題がありすぎるような感じで終わりました。

## 次回・7月の読書会案内

7月27日（土）13:30 白樺コミセンです

昨年9月に、享年75歳で亡くなられた名演技の女優・樹木希林さんの「一切なりゆき」（文春新書）を取り上げます。現在100万部を超えるベストセラーになっている作品です。お楽しみに。

文芸交流は「IT（情報技術）とAI（人工知能）について」の予定です。

# 当別文芸の会だよりNO.102

R1・9/15（連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550）

## 7月の読書会は樹木希林の「一切なりゆき」でした

「当別文芸の会」会員みなさま、お変わりなくおすごしでしょうか。

今年の6月下旬は天候不順で気温も例年より低く、冷害が心配されましたが、7月中旬からは気温も一気に上昇し、30℃を越える日が続き、北海道でも熱中症が気になる寝苦しい夜になりました。それでも、お盆がすぎると、少し涼しくなり、いつの間にか実りの時期を迎える日々となりました。

さて、今年度第3回目となる「当別文芸の会」例会（読書会）は、7月27日（土）に開催され、新しく会員になられた檜森茂樹さん（スウエーデンヒルズ在住）も出席され、会員が19名になり、当日は会員12名のみさんが参加されました（当日の司会進行は、幹事の新名正勝さんをお願いしました）。

今回の指定読書の樹木希林著「一切なりゆき」（文春新書）は、昨年12月の初版ですが、半年あまりで120万部を超える超ベストセラーになっているようです。

樹木希林は演技派の女優として知られていますが、ガンを患って昨年9月、75歳で他界しました。樹木希林の生き方は、普通でないところがいっぱいあるが、なぜ、魅かれるかということ、「ただあたふたせず、淡々と生きて淡々と死んで死んでいきたいなあと思うだけです」など、含蓄のあることばがいっぱいあります。会員みなさんは、自分なりに受け止めていたようで、おおむね好評のうちに読書会を終えることができました。ご苦労さまでした。

そのあとの文芸交流では、「IT（情報技術）やAI（人工知能）の発達＝あなたは思う？」でしたが、大きな課題で、未来社会へのとまどいも多く、難しい問題がありすぎるという感じだったでしょうか。

## 次回のご案内（会場が変更）

次回の10月19日（土）13:30からの例会は、文芸シンポジウムでテーマは「文芸の会の活動を振り返って」資料提供「活動10年のあゆみ」・河地良一 話題提供 大澤 勉・竹原一孝・新名正勝・松本 弘さん・他会員みなさん 司会進行 東前寛治さんで開催します。たくさんの会員みなさんのご参加を。

\*当日、白樺コミセンは、幼稚園の学芸発表会で全館使用のため、会場変更に。

田西会館（弥生1091）です。13:30 会場費は文芸の会で、よろしく。